

平成24年度
事業報告書

学校法人 常葉学園

目 次

1 . 法人の概要

(1) 建学の精神	1
(2) 学校法人の沿革	1
(3) 設置する学校・学部・学科等	5
(4) 学校・学部・学科等の学生生徒等の状況	6
(5) 役員の概要	7
(6) 評議員の概要	8
(7) 教職員の概要	9

2 . 事業の概要

(1) 事業の概要	1 0
(2) 主な事業の目的・計画及びその進捗状況	1 0
(3) 施設等の状況	2 0
(4) その他	2 3

3 . 財務の概要

(1) 財務の概要	2 4
(2) 資金収支計算書	2 5
(3) 消費収支計算書	2 6
(4) 貸借対照表	2 7
(5) 主な財務比率比較	2 8
(6) 借入金の状況	2 8
(7) 寄付金の状況	2 9
(8) 補助金の状況	2 9

1. 法人の概要

(1) 建学の精神

本法人の建学の精神は、次に掲げるとおりです。

建学の精神

常葉学園は、学問の研究と人間の育成に限りない情熱を傾けられた日本史学の泰斗木宮泰彦先生によって、昭和二十一年に創立された。「戦後の混沌とした日本を再び立ち上がらしめ、光輝ある平和な文化国家を建設するためには、先ず教育の力にまたなければならない。」とのゆるぎない信念のもとに、敢えて困難をも顧みず常葉学園の創立にあたられたのである。この教育の力に対する創立者の信頼と確信こそは、本学園の建学の精神の根本である。

創立者木宮泰彦先生は「万葉集」に見える聖武天皇の御製

橘は 実さへ 花さへ その葉さへ
枝に霜ふれど いや常葉の樹

に因んで学園を「常葉」と名づけ、その理想の姿を橘の瑞木に託された。霜雪に耐えてつねに青々とした葉を繁らせ、純白で香り高い花を咲かせ、豊かな黄金の実を結ぶ橘こそは、常葉学園の教育理念の象徴である。即ち、本学園の理想とする人間像は、美しい心情をもって、国家・社会・隣人を愛し、堅固な意志と健康な身体をもっていかなる苦難にもうち克ち、より高きを目指して学び続ける人間である。

百丈禅師のことは「一日作さざれば一日食はず」を自戒として、日々研鑽を積まれた学園創立者木宮泰彦先生の生涯は、まさにこの建学の精神の具現であった。先生は順境に奢らず、逆境にめげず、常によりよき自己の実現のために、生涯にわたって真摯な努力を続けられた。この創立者の精神こそ常葉学園にかかわるすべてのものの心である。

(2) 学校法人の沿革

昭和21年	6月	静岡女子高等学院創立
昭和22年	11月	静岡女子高等学院設置認可
昭和23年	2月	財団法人常葉学園設置認可
	4月	常葉中学校開校
昭和25年	12月	財団法人から学校法人へ組織変更認可
昭和26年	8月	静岡女子高等学院を高等学校として設置認可
	10月	静岡女子高等学院を常葉高等学校に名称変更認可
昭和27年	4月	常葉高等学校(普通科)開校
昭和28年	7月	各種学校たる静岡女子高等学院廃止認可
昭和38年	4月	橘高等学校開校
昭和40年	4月	橘中学校開校
昭和41年	4月	常葉女子短期大学(国文科、保育科)開学 常葉女子短期大学附属とこは幼稚園開園

昭和43年	4月	常葉女子短期大学に音楽科設置
昭和45年	4月	常葉女子短期大学に専攻科（保育専攻、音楽専攻）設置 常葉女子短期大学附属たちばな幼稚園開園
昭和46年	4月	橘高等学校に音楽科設置
昭和47年	4月	常葉女子短期大学に英文科、美術・デザイン科設置 常葉短大附属菊川高校（普通科、美術・デザイン科）開校
昭和53年	4月	常葉学園橘小学校開校 学園内各校（園）の名称変更 常葉女子短期大学 常葉学園短期大学 常葉女子短期大学附属とは幼稚園 常葉学園短期大学附属とは幼稚園 常葉女子短期大学附属たちばな幼稚園 常葉学園短期大学附属たちばな幼稚園 常葉高等学校 常葉学園高等学校 常葉中学校 常葉学園中学校 橘高等学校 常葉学園橘高等学校 橘中学校 常葉学園橘中学校 常葉短大附属菊川高校 常葉学園菊川高等学校
昭和55年	4月	常葉学園大学（教育学部初等教育課程）開学
昭和56年	4月	常葉学園橘小学校を常葉学園大学教育学部附属橘小学校に名称変更
昭和58年	4月	常葉学園橘高等学校に英数科設置
昭和59年	4月	常葉学園大学に外国語学部（英米語学科、スペイン語学科）設置
昭和63年	4月	常葉学園浜松大学（経営情報学部経営情報学科）開学
平成2年	4月	常葉学園富士短期大学（商学科、国際教養科）開学
平成5年	4月	常葉学園短期大学専攻科（保育専攻、音楽専攻）が学位授与機構から認定専攻科の認定を受ける
平成6年	4月	常葉学園浜松大学に国際経済学部（国際経済学科）設置 常葉学園短期大学専攻科〔美術・デザイン専攻〕学位授与機構認定専攻科〕設置
平成7年	4月	常葉学園短期大学国文科を国語国文科に英文科を英語英文科に名称変更するとともに専攻科国語国文専攻〔学位授与機構認定専攻科〕及び留学生別科設置 学校法人浜松常葉学園が発足し、常葉情報専門学校開校
平成8年	4月	常葉学園大学大学院国際言語文化研究科（国際教育専攻、英米言語文化専攻）設置 常葉学園浜松大学大学院経営学研究科（経営学専攻）設置 常葉学園医療専門学校（理学療法学科、作業療法学科）開校 常葉情報専門学校を常葉環境情報専門学校に名称変更

平成10年	4月	常葉学園大学教育学部に生涯学習学科設置 常葉学園浜松大学を浜松大学に名称変更
平成12年	4月	富士常葉大学（流通経済学部流通経済学科、環境防災学部環境防災学科）開学
平成13年	4月	浜松大学経営情報学部に情報ネットワーク学科設置 常葉学園短期大学国語国文科を日本語日本文学科と名称変更
	10月	常葉学園富士短期大学廃止認可
平成14年	4月	常葉学園大学に造形学部（造形学科）設置
平成15年	4月	常葉学園菊川中学開校 常葉学園短期大学留学生別科廃止
平成16年	3月	常葉学園短期大学美術・デザイン科及び専攻科(美術・デザイン専攻)廃止
	4月	常葉学園大学教育学部に心理教育学科、外国語学部にグローバルコミュニケーション学科設置
平成17年	4月	浜松大学に健康プロデュース学部（健康栄養学科、こども健康学科、心身マネジメント学科）及び留学生別科設置 常葉学園医療専門学校に鍼灸学科、柔道整復学科設置 常葉学園静岡リハビリテーション専門学校（理学療法学科）開校
平成18年	4月	富士常葉大学に大学院環境防災研究科、保育学部（保育学科）、留学生別科を設置するとともに流通経済学部（流通経済学科）を総合経営学部（総合経営学科）に名称変更
平成19年	4月	浜松大学にビジネスデザイン学部（経営情報学科、サービスと経営学科）設置
平成20年	4月	常葉学園大学大学院に初等教育実践研究科（初等教育高度実践専攻）設置 学校法人常葉学園が学校法人浜松常葉学園を吸収合併
	7月	常葉学園大学外国語学部スペイン語学科廃止届出
	9月	常葉環境情報専門学校廃止認可
平成21年	4月	浜松大学保健医療学部（理学療法学科、作業療法学科）設置 浜松大学大学院健康科学研究科設置
平成22年	3月	浜松大学経営情報学部（経営情報学科・情報ネットワーク学科）及び国際経済学部（国際経済学科）廃止
	4月	浜松大学健康プロデュース学部（健康柔道整復学科、健康鍼灸学科）設置 富士常葉大学社会環境学部（社会環境学科）設置
平成24年	8月	常葉学園高等学校全日制課程家庭科廃止認可、常葉学園医療専門学校廃止認可
（特記）		
平成25年	4月	大学統合等に伴う学校名の変更 常葉学園大学 常葉大学 常葉学園短期大学 常葉大学短期大学部

常葉学園大学教育学部附属橘小学校
常葉大学教育学部附属橘小学校
常葉学園短期大学附属とこは幼稚園
常葉大学短期大学部附属とこは幼稚園
常葉学園短期大学附属たちばな幼稚園
常葉大学短期大学部附属たちばな幼稚園
常葉大学に学部及び大学院研究科を設置
法学部法律学科
健康科学部看護学科・同静岡理学療法学科
経営学部経営学科
健康プロデュース学部健康栄養学科・同こども健康学科・同心身マネ
ジメント学科・同健康鍼灸学科・同健康柔道整復学科
保健医療学部理学療法学科・同作業療法学科
社会環境学部社会環境学科
保育学部保育学科
健康科学研究科健康栄養科学専攻・同臨床心理学専攻
環境防災学研究科環境防災専攻

(3) 設置する学校・学部・学科等

(平成24年5月1日現在)

学校名	開校年月	研究科・学部・課程等	専攻・学科・科	開設年月	摘要
常葉学園大学	昭和55年4月	教育学部	初等教育課程	昭和55年4月	
			生涯学習学科	平成10年4月	
			心理教育学科	平成16年4月	
		外国語学部	英米語学科	昭和59年4月	
グローバルコミュニケーション学科	平成16年4月				
		造形学部	造形学科	平成14年4月	
常葉学園大学大学院	平成8年4月	国際言語文化研究科	英米言語文化専攻	平成8年4月	
			国際教育専攻	平成8年4月	
		初等教育高度実践研究科	初等教育高度実践専攻	平成20年4月	
浜松大学	昭和63年4月	ビジネスデザイン学部	経営情報学科	平成19年4月	1
			サービスと経営学科	平成19年4月	1
		健康プロデュース学部	健康栄養学科	平成17年4月	1
			こども健康学科	平成17年4月	1
			心身マネジメント学科	平成17年4月	1
			健康鍼灸学科	平成22年4月	1
			健康柔道整復学科	平成22年4月	1
		保健医療学部	理学療法学科	平成21年4月	1
			作業療法学科	平成21年4月	1
			留学生別科	平成17年4月	
浜松大学大学院	平成8年4月	経営学研究科	経営学専攻	平成8年4月	
		健康科学研究科	健康栄養科学専攻	平成21年4月	2
			臨床心理学専攻	平成21年4月	2
富士常葉大学	平成12年4月	総合経営学部	総合経営学科	平成12年4月	1
		環境防災学部	環境防災学科	平成12年4月	3
		保育学部	保育学科	平成18年4月	1
		社会環境学部	社会環境学科	平成22年4月	1
			留学生別科	平成18年4月	
富士常葉大学大学院	平成18年4月	環境防災研究科	環境防災専攻	平成18年4月	2
常葉学園短期大学	昭和41年4月		日本語日本文学科	昭和41年4月	
			英語英文科	昭和47年4月	
			保育科	昭和41年4月	
			音楽科	昭和43年4月	
		専攻科	国語国文専攻	平成7年4月	
			保育専攻	昭和45年4月	
		音楽専攻	昭和45年4月		
常葉学園医療専門学校	平成8年4月	医療専門課程	理学療法学科	平成8年4月	4
			作業療法学科	平成8年4月	4
			鍼灸学科	平成17年4月	5
			柔道整復学科	平成17年4月	5
常葉学園静岡リハビリテーション専門学校	平成17年4月	医療専門課程	理学療法学科	平成17年4月	1
常葉学園高等学校	昭和27年4月	全日制課程	普通科	昭和27年4月	
常葉学園橘高等学校	昭和38年4月	全日制課程	英数科	昭和58年4月	
			普通科	昭和38年4月	
			音楽科	昭和46年4月	6
常葉学園菊川高等学校	昭和47年4月	全日制課程	普通科	昭和47年4月	
			美術・デザイン科	昭和47年4月	
常葉学園中学校	昭和23年4月				
常葉学園橘中学校	昭和40年4月				
常葉学園菊川中学校	平成15年4月				
常葉学園大学教育学部附属橘小学校	昭和53年4月				
常葉学園短期大学附属とこは幼稚園	昭和41年4月				
常葉学園短期大学附属たちばな幼稚園	昭和45年4月				

- 1 平成24年度から学生募集を停止し、平成27年度をもって廃止予定
- 2 平成24年度から学生募集を停止し、平成25年度をもって廃止予定
- 3 平成21年度から学生募集を停止し、平成24年度をもって廃止（平成25年度に廃止届出予定）
- 4 平成20年度から学生募集を停止し、平成23年度をもって廃止（平成24年8月廃止認可）
- 5 平成21年度から学生募集を停止し、平成27年度をもって廃止（平成24年8月廃止認可）
- 6 平成23年度から生徒募集を停止し、平成25年度をもって廃止予定

(4) 学校・学部・学科等の学生生徒等数の状況

(平成24年5月1日現在)

学 校 名	研究科・学部・課程等名	専攻・学科・科名	入学定員数	収容定員数	現員数	摘要
常葉学園大学	教育学部	初等教育課程	110	440	519	
		生涯学習学科	80	280	296	
		心理教育学科	80	280	300	
	外国語学部	英米語学科	100	420	464	
		グローバルコミュニケーション学科	70	300	243	
	造形学部	造形学科	80	330	348	
常葉学園大学大学院	国際言語文化研究科	英米言語文化専攻	10	20	1	
		国際教育専攻	10	20	4	
	初等教育高度実践研究科	初等教育高度実践専攻	20	40	25	
浜松大学	ビジネスデザイン学部	経営情報学科	120	580	301	1
		サービスと経営学科	120	550	383	1
	健康プロデュース学部	健康栄養学科	80	340	255	1
		こども健康学科	60	280	165	1
		心身マネジメント学科	110	470	346	1
		健康鍼灸学科	30	90	35	1
		健康柔道整復学科	30	90	79	1
	保健医療学部	理学療法学科	40	160	185	1
		作業療法学科	40	160	101	1
			留学生別科	40	40	8
浜松大学大学院	経営学研究科	経営学専攻	15	30	34	
	健康科学研究科	健康栄養科学専攻	10	20	4	2
		臨床心理学専攻	10	20	21	2
富士常葉大学	総合経営学部	総合経営学科	160	730	589	1
	環境防災学部	環境防災学科	-	155	95	3
	保育学部	保育学科	80	330	344	1
	社会環境学部	社会環境学科	130	400	241	1
			留学生別科	30	30	0
富士常葉大学大学院	環境防災研究科	環境防災専攻	10	20	9	2
常葉学園短期大学		日本語日本文学科	80	160	110	
		英語英文科	80	160	90	
		保育科	200	400	432	
		音楽科	55	110	75	
	専攻科	国語国文専攻	20	40	15	
		保育専攻	20	40	25	
		音楽専攻	20	40	45	
常葉学園医療専門学校	医療専門課程	理学療法学科	-	0	0	4
		作業療法学科	-	0	0	4
		鍼灸学科	-	0	0	5
		柔道整復学科	-	0	0	5
常葉学園静岡リハビリテーション専門学校	医療専門課程	理学療法学科	80	320	220	1
常葉学園高等学校	全日制課程	普通科	240	720	693	
常葉学園橘高等学校	全日制課程	英数科	80	240	117	
		普通科	420	1,260	768	
		音楽科	-	80	25	6
常葉学園菊川高等学校	全日制課程	普通科	315	945	888	
		美術・デザイン科	60	180	128	
常葉学園中学校			80	240	125	
常葉学園橘中学校			90	270	211	
常葉学園菊川中学校			60	180	165	
常葉学園大学教育学部附属橘小学校			60	360	308	
常葉学園短期大学附属とは幼稚園			90	240	252	
常葉学園短期大学附属たちばな幼稚園			86	230	239	

- 1 平成24年度から学生募集を停止し、平成27年度をもって廃止予定
- 2 平成24年度から学生募集を停止し、平成25年度をもって廃止予定
- 3 平成21年度から学生募集を停止し、平成24年度をもって廃止（平成25年度に廃止届出予定）
- 4 平成20年度から学生募集を停止し、平成23年度をもって廃止（平成24年8月廃止認可）
- 5 平成21年度から学生募集を停止し、平成27年度をもって廃止（平成24年8月廃止認可）
- 6 平成23年度から生徒募集を停止し、平成25年度をもって廃止予定

(5) 役員の概要

理事13人(定数10人以上13人以内)

監事 5人(定数 2人以上 5人以内)

(平成24年4月1日現在)

区分	氏名	常勤・非常勤別	摘要
理事長	木宮健二	常勤	平成14年4月理事就任 平成14年4月理事長就任 平成19年4月富士常葉大学学長就任
副理事長	木宮一邦	常勤	平成9年4月理事就任(平成11年3月迄) 平成9年4月副理事長就任(平成11年3月迄) 平成14年4月浜松大学学長就任(平成22年3月迄) 平成14年4月理事就任 平成21年4月副理事長就任
副理事長	木宮岳志	常勤	平成19年5月理事就任 平成21年4月副理事長就任 平成22年4月常葉学園短期大学学長就任
常務理事	高木敏正	常勤	平成21年4月理事就任 平成21年4月常務理事就任
常務理事	加藤薫	常勤	平成23年4月理事就任 平成23年4月常務理事就任
理事	角替弘志	常勤	平成22年4月常葉学園大学学長就任 平成22年4月理事就任
理事	中村正義	常勤	平成22年4月浜松大学学長就任 平成22年4月理事就任
理事	吉村耕司	常勤	平成20年4月常葉学園橋中・高等学校校長就任 平成21年4月理事就任
理事	木村美知子	常勤	平成23年4月常葉学園中・高等学校校長就任 平成23年4月理事就任
理事	三浦均	非常勤	平成17年4月理事就任 平成17年4月常務理事就任(平成23年3月迄)
理事	宮川勇	非常勤	平成23年4月理事就任(スズキ株式会社顧問)
理事	神野建二	非常勤	平成23年4月理事就任(東海澱粉株式会社代表取締役会長)
理事	北村敏廣	非常勤	平成23年4月理事就任(株式会社静岡新聞社代表取締役専務)
監事	加藤正秀	非常勤	昭和62年10月理事就任(平成14年3月迄) 平成14年4月監事就任(学校法人加藤学園理事長)
監事	高木伯一	非常勤	昭和50年10月理事就任(昭和60年2月迄) 昭和60年3月監事就任(花の舞酒造株式会社相談役)
監事	石橋一郎	非常勤	平成6年4月理事就任(平成9年3月迄) 平成6年4月常務理事就任(平成9年3月迄) 平成9年4月監事就任
監事	西頭徳三	非常勤	平成23年4月監事就任
監事	齋藤安彦	非常勤	平成21年4月監事就任(弁護士)

(6) 評議員の概要

評議員 43人(定数39人以上51人以内)

(平成24年4月1日現在)

氏名	在任年月	主な現職等
角 替 弘 志	11年	常葉学園大学学長
中 村 正 義	13年	浜松大学学長
木 宮 健 二	10年	富士常葉大学学長
木 宮 岳 志	4年11か月	常葉学園短期大学学長
若 杉 仁	1年	常葉学園静岡リハビリテーション専門学校校長
木 村 美知子	1年	常葉学園中・高等学校校長
吉 村 耕 司	6年	常葉学園橋中・高等学校校長
土 屋 義 人	新任	常葉学園菊川中・高等学校校長
柴 田 幸 洋	新任	常葉学園大学教育学部附属橘小学校校長
稲 葉 昌 代	2年	常葉学園短期大学附属とこは幼稚園園長
大 堀 昌 子	6年	常葉学園短期大学附属たちばな幼稚園園長
木 宮 一 邦	21年	常葉学園企画監
鈴 木 治	1年	浜松大学副学長・ビジネスデザイン学部長
高 木 敏 正	3年	常葉学園人事監
鈴 木 薫	4年	常葉学園大学副学長・外国語学部長
中 川 邦 明	2年	常葉学園大学副学長・教育学部長
筒 井 祥 博	2年	浜松大学副学長・保健医療学部長
稲 葉 光 彦	6年	富士常葉大学副学長・保育学部長
畑 隆	3年	富士常葉大学総合経営学部長・図書館長
尾 崎 富 義	1年	常葉学園短期大学副学長
勝 俣 元 雅	27年	常葉学園大学第1回卒・静岡市立小学校教頭
池 村 俊 典	1年	浜松大学第1回卒 保険代理業
小 倉 岳 彦	12年	常葉学園富士短期大学第1回卒・会社員
稲 川 直 子	3年	常葉学園短期大学第2回卒・特養老園長
小 澤 美佐子	11年	常葉学園中高校第13回卒
三 坂 加代子	1年	常葉学園中高校第20回卒・常葉学園中高校事務長
村 上 信 也	7年	常葉学園橋中高校第7回卒・会社役員
伊 藤 元 久	11年	常葉学園菊川中高校第6回卒・元同窓会会長・会社員
町 田 益 己	33年11か月	常葉学園橋中高校第7回卒・常葉学園大学後援会OB会会員・県職員
望 月 春 雄	5年	常葉学園大学後援会OB会会員・常葉会顧問・会社役員
矢 部 正 則	3年	元浜松大学後援会会長・会社員
三 澤 賢 治	7年	富士常葉大学後援会OB会会長・会社役員
池ヶ谷 恒 雄	3年	常葉学園短期大学後援会OB会会長
前 畑 謙 次	3年	常葉学園中高校PTA顧問・会社役員
山 田 誠	7年	常葉学園橋中高校第15回卒・PTA会長・県議会議員
大 橋 隆 夫	5年	元常葉学園菊川中高校PTA・後援会会長・菊綾会理事
木 宮 和 彦	61年4か月	常葉学園学園長
海 野 晴 男	22年	常葉学園名誉理事
狩 野 義 之	9年	前常葉学園本部企画部長
加 藤 薫	1年	常葉学園本部事務局長
三 浦 均	7年	前常葉学園常務理事
山 本 陽 一	22年	常葉学園名誉理事・常葉福社会理事長
海 野 泰 男	37年11か月	常葉学園名誉学長

(7) 教職員の概要

(平成24年5月1日現在 単位：人)

		常葉学園本部	常葉学園大学	浜松大学	富士常葉大学	常葉学園短期大学	常葉高等学校	常葉中学校
教員	本務	0	94	130	58	43	36	10
	兼務	0	165	137	97	166	27	13
職員	本務	52	40	32	31	17	4	1
	兼務	34	14	24	17	16	2	0

		橘高等学校	橘中学校	菊川高等学校	菊川中学校	橘小学校	とこは幼稚園	たちばな幼稚園
教員	本務	49	14	55	12	26	13	13
	兼務	51	14	38	6	18	3	5
職員	本務	4	1	5	1	2	1	1
	兼務	5	6	5	0	1	0	0

		静岡リ八専	常葉リ八病院	総合計
教員	本務	11	0	564
	兼務	45	0	785
職員	本務	4	83	279
	兼務	1	32	155

(注) 本務者の平均年齢は、教員47.3歳 職員は42.7歳である。

2. 事業の概要

(1) 事業の概要

中央教育審議会（教育振興基本計画部会）では、平成24年8月、「第2期教育振興基本計画」の審議経過報告を発表しました。その前文では、いままさにわが国に求められているものは、「自立・協働・創造に向けた一人一人の主体的な学び」であるとし、社会を生き抜く力の養成、未来への飛躍を実現する人材の養成、学びのセーフティネットの構築、絆づくりと活力あるコミュニティの形成の4点を計画の基本的方向性として位置づけたほか、29の具体的施策を提示しました。

本法人におきましては、公教育の一端を担う立場として、こうした国の教育指針に呼応する一方、私学ならではの「建学の精神」を継承しつつ、平成24年度事業計画に基づき、諸事業を執行いたしました。

特に平成22年度に策定し、本年度も重点施策として掲げた下記の3つの重点事業計画については、平成25年度の事業実施に向け、学園挙げて関連業務に精励した結果、すべてが所期の目的どおり実現することになりました。

学園内3大学（常葉学園大学、浜松大学、富士常葉大学）の統合（統合後の大学名は、「常葉大学」）

水落校地（静岡市葵区）への常葉大学新学部（法学部・健康科学部）の設置。

常葉中・高等学校校舎改築工事及び常葉大学新学部の校舎建築工事（第1期工事は平成25年1月18日完成。なお、第1期 - 常葉中・高等学校校舎改築工事及び第1期 - 常葉大学新学部校舎建築工事は、平成26年2月末に完成予定）

(2) 主な事業の目的・計画及びその進捗状況

組織の充実・強化

平成24年度の基本方針として掲げた教職員研修を通じた人材の育成及び教育力・事務力の向上、諸規程等の整備による組織力の向上、3大学の統合及び学部新設に伴う諸業務への対応については、以下のとおり推進しました。

第一に、寄附行為に基づく常務理事会は、理事長、副理事長、常務理事の出席のもと、常葉学園大学学長及び浜松大学学長並びに常葉学園橘中・高等学校校長が陪席して年間18回開催し、業務の円滑な遂行に資するように努めました。特に平成24年度は、大学統合や学部の新設、寄附行為の一部変更など、重点事業計画推進の正念場に当たる年度であったことから、適切・的確な法人運営に特に留意しました。

第二に、諸規程の整備については、就業規則、管理規則及び経理規則等の改正を行ったほか、平成25年度からの大学統合に伴い大学事務決済規程を制定しました。

第三に、事務職員の職階制度は適用を開始して3年目に入り、管理職への昇任審査を行った結果、多くの管理職が誕生しました。

第四に、内部監査については、各所属の業務が諸規程に則して適正かつ効率的、効果的に行われているかの観点から内部監査を実施しました。また、前年度に行った内部監査において指摘した課題についての対処・改善の状況について確認しました。その結果、各所属において改善した事項が多く見られました。

第五に、教職員の能力向上については、経験年数やその職務に応じて行う基本研修及び1年間に2箇月間実施する授業力・事務力向上強化月間制度が5年目を迎え、着実に定着しました。管理職研修会については、静岡県内において2日間の日程で実施し、変革を見据えた研修を2年続けて行いました。夏期研修会については、学園内の全教職員が一堂に会し、変革を見据えた研修かつ担当校の特色を生かした研修を行いました。各大学・短大においては、各校のビジョンや課題に応じたFD・SD研修を実施しています。また、学外研修については、教育力及び事務力向上に資する研修に多くの教職員が参加しており、4年前までの研修も含めて、新しい事務システムに履歴事項として登録を進めています。

第六に、コンピューターによる事務システムの見直しについては、大学統合に関わるシステム変更が進行中です。

最後に、平成23年2月1日付けで本部内に組織した「大学統合・学部新設機関」は、無事その役割を終え平成24年度末で解散しましたが、引き続きさらなる大学改革を断行するため、平成25年度から新たに「大学改革推進事務局」を設置することとしました。また、新大学の円滑なスタートに資するため、大学事務組織等の改革準備を進めました。

財政の健全化

学校法人の財政を支える主要な収入源は、帰属収入の大半を占める学生生徒等納付金であり、財務基盤を強化するためには、何よりも学生生徒を安定的に確保する必要があります。このためには、より質の高い教育を提供して学生、生徒、保護者等への満足度・信頼度を高めるとともに、地域の総合大学としての「常葉大学ブランド」の確立が急務となります。

平成24年度は、インターネット等を活用した学生・生徒募集の強化に重点を置き、複数学部受験の割引（トコ割）の実施や常葉大学の新ロゴマークを使った広報事業に取り組んだことなどもあって、前年度を大幅に上回る受験者と定員を上回る入学者を確保できました。

また、学生生徒等納付金に次ぐ収入となる補助金については、交付基準の変更などに伴い大学・短大の経常費補助金は46百万円余の減少となりましたが、水落校舎建設に伴う私立大学等施設整備補助金や地震対策緊急整備補助金をはじめ、パソコン等IT教育環境設備補助金などの獲得に努めたことにより、総額では前年度を70百万円上回ることができました。

今後も安定的な収入の確保に努めるとともに、事業別予算編成を導入する中で経費の削

減や効率化を進め、学園の財政の健全化に努めてまいります。

なお、財務の公開については、学校法人が公共性の高い法人として社会に対する説明責任を果たすため、法で定められた情報公開のみならず、インターネット等を活用して、広く一般に向けた情報の提供に努めたところであります。

特色ある教育事業の実施

教育は、あらゆる社会システムの基盤です。特に資源に乏しいわが国にあっては人材こそ財産であり、次世代を育てる教育事業は、国の最も重要な施策であると言っても過言ではありません。

本法人におきましては、主要事業計画の中で掲げた3つの重点事業計画の推進はもとより、建学の精神に則った特色ある従来の教育研究活動を実践しつつ、社会や時代の要請に対応した新規事業にも取り組むことによって理解と評価を得て、さらに安定した教学運営を行うことを目指します。

以上を踏まえ、平成24年度は以下に掲げる教育事業を中心に推進しました。

大学・大学院、短期大学、専門学校

常葉学園大学・大学院

・教育学部における特別支援学校及び保健体育の教員免許状の課程認定に伴う保健体育施設の整備については、教員の確保及び体育施設・器具の整備を計画的に進めました。

・外国語学部（グローバルコミュニケーション学科）における全学生が2か国語を活用できるスキルを養うカリキュラムの導入に伴う教育支援の充実については、グローバルな視野を持った人材育成のために、語学提携先として韓国及び中国（台湾）の大学の現地調査を行い、具体的な提携先の検討に入りました。

・教職大学院の充実については、県市教育委員会、校長会及び県下全小学校を対象に「大学院就学休業制度」活用の周知・徹底に努めたことに加え、現職教員の出願資格や修業年限をよりわかりやすく説明するとともに特待生制度を充実させました。さらに、ストレートマスター確保のために学内推薦制度及び奨学生制度の充実を図るなどの方策を凝らし、定員確保に努めました。

浜松大学・大学院

・キャリア支援体制の強化による就職の質と量の向上については、キャリアカウンセラーによる就職相談、ハローワークの大卒就職ジョブサポーターによる学内求人相談、就職試験対策総合講座等、キャリア支援のための多彩な事業を積極的に実践した結果、就職内定率が前年同期に比べ9ポイントアップしました。

・Web上におけるシラバスの公開、学生総合ファイルの作成、授業アンケートの実施等を通じた教育の満足度の向上については、いずれも所期の目的どおり関連事業を実践した結果、

教育の満足度向上に着実に結びついています。

・大学院健康科学研究科リハビリテーション科学専攻設置のための設置認可申請については、あらゆる観点から多面的に検討した結果、本年度は設置認可申請をせず、設置のための諸条件が整った段階で再度検討することとしました。

富士常葉大学・大学院

・キャリア支援の充実については、キャリアカウンセラーによる個別指導等の強化をはじめ、企業研究のためのミニガイダンス、ハローワーク主催による学内ガイダンス、特別講座（公務員講座・SPI 講座・資格取得講座）ANA 主催の就職活動強化セミナー、ふじとこ未来塾、インターンシップ等、多彩なキャリア支援事業を実施しました。

・大学教育に対する能動的な姿勢を涵養するための初年次教育 - AO 入試合格者に対する「準備段階教育プログラム」及び入学者全員を対象とする「入学前教育プロジェクト」 - については、2つのプログラムを計画どおり実施することにより、新入生の大学教育に対する不安やとまどいを払拭するよう努めました。

・少人数の演習科目である教養セミナー及びゼミナールを活用した研究発表能力・プレゼンテーション能力・実社会への適応能力等の涵養については、教養セミナーでは、1年生の研修センターゼミやフレッシュマンセミナーを通じて、大学生活に積極的・意欲的に取り組む姿勢の涵養に努めたほか、ゼミナールにおいては研究発表を通じてプレゼンテーション能力や社会への適応能力の向上に努めました。

常葉学園短期大学

・英語英文科の改組、保育科のバージョンアップ、日本語日本文学科の定員削減、音楽科の立て直し等学科構成の見直しについては、学科見直し等検討委員会を設置し、4つの分科会において全学的見地から学科構成の見直しを検討しました。

・教養教育の見直しについては、学科構成の見直しの進捗状況を見極めつつ、並行して具体策を検討することとしました。

・附属幼稚園との連携強化については、保育科のみならず音楽科・英語英文科も参画する短・幼連携実践の場と位置づけ、プロジェクトの具体的内容について継続して検討しました。

常葉学園静岡リハビリテーション専門学校

・成績不振者に対する個別指導、外部講師による特別講義、定期的な模擬試験、国語力アップ対策等を通じた国家試験合格率の向上については、計画どおり取り組みを進めた結果、国家試験合格率（新卒）は97.1%と、全国平均の88.7%を上回る数字を残すことができました。

・様々な臨床実習対策を通じた確実な知識と技術の習得については、Paper Patient を利用した臨床推論の構築、臨床実習指導者によるサポート、外部審査員による検証等を通じて確実な修得に努めました。

・キャリアサポートセンターによる就職ガイダンスの実施による就職支援の強化及び卒業後教

育の充実によるキャリアアップ支援については、計画どおり実践した結果、(新卒の)就職率は昨年度を上回る97.1パーセントを達成しました。また、卒業教育については、本年度は7月、9月、12月の3回にわたってキャリアアップ支援セミナーを実施し、卒業生から好評を博しました。

高等学校、中学校、小学校

常葉学園中学校・高等学校

・「知性」「自律心」「豊かな心」を持ち、社会に貢献できる品位ある女性を育成するための常葉女子教育の確立については、通常の授業はもとより、マナー講座・キャリア講演会、卒業前講座「生命を育む」、映画「うまれる」鑑賞会、特養ところは福祉体験などを通じて、生徒に品位ある所作が身につくよう努めました。

・特色ある英語教育の推進、海外留学及び海外研修の充実については、的確な英語指導により英検2級取得者やTOEIC高得点者の増加、生徒の海外留学へのサポート(アメリカ・オマハ市へ2名が留学)、イギリス研修プログラムの改善等を行いました。

・校舎改築に伴う新旧校舎の円滑かつ安全な利活用については、体育館、グラウンド、小講堂の代替施設として学園内外の施設借用計画を策定し、生徒・保護者の理解を得ながら円滑に利活用を進めていくこととしました。

常葉学園橘中学校・高等学校

・橘高校創立50周年記念式典については、平成24年10月20日、静岡市民文化会館において挙行いたしました。

・教育目的・教育目標及び教育方針の周知徹底、特色ある科・コースの指導方針に基づいた教育活動の実践と充実等の学校改革の推進については、教職員向けの「学校通信」を発行して啓発に努めたほか、中学及び高校一貫コースを対象とした新たな解決策(アドバンス・スタンダードのコース分け、6カ年を通した行事・生活指導の見直し、英語強化等)も講じました。

・教員の授業力向上については、公開授業、代ゼミ講師による授業研究会、学校評価・授業アンケートの実施、教科指導、入試問題研究・模擬試験問題研究等、様々な試みを組み合わせながら実践しました。

常葉学園菊川中学校・高等学校

・菊川高校創立40周年並びに菊川中学創立10周年記念式典については、平成24年11月15日、菊川文化会館アエルにおいて挙行いたしました。

・教育力及び進学実績の向上のうち、教育力については各種研修等(分掌主催の研修会、予備校主催の教育家研究セミナー・教員向け講座、教科別授業研究・授業観察、私学教育振興会研修、豊田順介教育振興基金を活用した各種研修等)への参加によりスキルアップに努めました。また、進学実績の向上については、学習環境の整備、授業規律の確立、担任と教科

担当・部活顧問間の連携強化、放課後の自主学習の保障、新学習指導要領完全実施への対応、面接の重視等の対策を講じました。

・特に外部からの評価が高い文化部を重点的に強化する部活動の方策については、ダンス部、書道部、美術部、演劇部、合唱部のさらなる活性化を促すため、対外的な活躍の場を広げるよう支援しました。

常葉学園大学教育学部附属橘小学校

・6年間を見通した教育方針の実践（基本的な3つのフォーム 学習・生活・社会化 を鍛える）については、「三方よし」は人間関係力を高め、少人数教育は「知識から知恵への思考の転換」を促し、各種行事は「自己決断と自己責任」を涵養し、それぞれを子どもたちの確実な成長につなげています。

・これまで受け継がれてきた橘小教育を再評価し、今後の橘小教育に反映させていくことについては、低学年では「学ぶ」道具の徹底指導、高学年では「宿題」から「自主学習」への移行、さらに学校の共通目標として「読む」力 音読と読書 と「書く」力 日記とノートを身に付けることを再確認し、それぞれについて実践しました。

・小学校「英語教育」の確実な実践については、日常の英語学習（オーラルコミュニケーション）を通して、また、「オーストラリア英語体験研修」や「沖縄英語研修」といった行事への参加を通して、英語のコミュニケーション能力を育てています。

幼稚園

常葉学園短期大学附属とこは幼稚園、常葉学園短期大学附属たちばな幼稚園

・保育の向上については、教育課程の見直し、教員の資質向上、自己評価・学校関係者評価を通じて実践に努めました。

・両幼稚園相互の連携については、職員合同研修を定期的実施してスキルアップに努めたほか、とこは幼稚園、たちばな幼稚園両園間でも計画的に行い、園児の交流を深めました。

・短大との連携強化については、短大専攻科・本科実習生への実習指導、幼稚園行事への学生の積極的な参加、専攻科学生との研究保育等を通じて連携を深めました。

豊田順介奨学基金

幼稚園から高等学校までの教育振興のために寄附いただいた「豊田順介奨学基金」の本年度における活用状況は、次のとおりです。

中・高等学校	40件	6,151千円
小学校	0件	0千円
<u>幼稚園</u>	<u>4件</u>	<u>539千円</u>
計	44件	6,690千円

募集状況・進路状況

本年度における学園全体の学生・生徒等募集状況は、志願者が前年度の2倍、16,000名にも達するという記録的な伸びを示しました。その原動力となったのが、学園内3大学を統合して平成25年度に誕生する常葉大学です。常葉大学への入学志願者（学部、編入学を除く）は、12,550名と前年度の4,260名のほぼ3倍にも達したほか、入学定員（学部）1,680名に対する入学予定者は1,855名（定員充足率1.1倍）と、いずれも予想を大きく上回る結果を残すことができました。これは、大学統合、法学部・健康科学部の新設、入試制度改革という大胆な改革に踏み出した常葉大学の教育・研究に対する地域からの期待の現れだと自負しておりますが、これを一過性に終わらせることなく、常にステークホルダーや地域から支持を得ることのできる大学を目指して引き続きたゆまぬ大学改革を推進してまいります。

学園全体や常葉大学としては非常に好調であった学生募集ですが、それ以外の学校では、学生・生徒募集に苦戦を余儀なくされたところもありました。こうした学校におきましては、その原因を正確かつ速やかに分析して募集計画を再構築し、計画的できめ細やかな募集活動を展開するとともに、特色ある教育活動の推進により一層工夫を凝らし、地域から支持される学校づくりに努めて参ります。

一方、進路状況につきましては、学園内の大学・短期大学・専門学校就職内定率は、軒並み前年度を上回る良い数字を残しております。各学校ともに、低学年次からの多様で丁寧なキャリアサポート事業を積み重ねにより、早くから学生の職業観や就職意識の涵養に努めた、主体的に就職活動を行ったことがこのような結果に結びついたといえます。

さらに、高等学校におきましては前年度を上回る多くの生徒が、国公立大学、国公立短期大学、専門学校への進学を果たすとともに、希望する企業等への就職を叶えました。

<別表 1>

平成 2 4 年度における入試状況及び就職状況

(1) 大学・短大・専門学校

(平成25年5月1日現在)

学校名	学部・学科名	入学定員 (人)	入学者 (人)	就職内定率 (%)	
常葉大学	教育学部	初等教育課程	110	206	
		生涯学習学科	80	119	
		心理教育学科	80	87	
	外国語学部	英米語学科	100	102	
		グローバルコミュニケーション学科	70	57	
	造形学部	造形学科	80	92	
	法学部	法律学科	160	208	
	健康科学部	看護学科	80	75	
		静岡理学療法学科	60	70	
	健康プロデュース学部	健康栄養学科	80	103	
		こども健康学科	50	53	
		心身マネジメント学科	110	118	
		健康鍼灸学科	30	24	
	保健医療学部	健康柔道整復学科	30	32	
		理学療法学科	40	39	
	経営学部	作業療法学科	40	41	
		経営学科(浜松)		141	
		経営学科(富士)		105	
	社会環境学部	経営学科計	300	246	
		社会環境学科	100	82	
保育学部	保育学科	80	101		
	計	1,680	1,855		
常葉学園大学	教育学部	初等教育課程			99.1
		生涯学習学科			85.2
		心理教育学科			95.2
	外国語学部	英米語学科			83.2
		グローバルコミュニケーション学科			88.4
造形学部	造形学科			86.3	
浜松大学	ビジネスデザイン学部	経営情報学科			92.3
		サービスと経営学科			98.6
	健康プロデュース学部	健康栄養学科			97.9
		こども健康学科			95.5
		心身マネジメント学科			95.5
		健康鍼灸学科			
	保健医療学部	健康柔道整復学科			
理学療法学科				100.0	
作業療法学科			100.0		
富士常葉大学	総合経営学部	総合経営学科			85.5
	環境防災学部	環境防災学科			90.6
	社会環境学部	社会環境学科			
	保育学部	保育学科			100.0
常葉大学短期 大学部(旧常 葉学園短期大 学)		日本語日本文学科	80	50	94.6
		英語英文科	80	47	97.1
		保育科	200	217	100.0
		音楽科	55	39	100.0
	計	415	353		
静岡リハビリ テーション 専門学校	理学療法学科			97.1	

大学院、専攻科、留学生別科は除く

(2) 高等学校

(平成25年5月1日現在)

入学定員及び入学者数

	科	入学定員	入学者数
常葉学園高等学校	普通科	240	169
常葉学園橘高等学校	普通科	420	336
	英数科	80	49
	音楽科	40	
	合計	540	385
常葉学園菊川高等学校	普通科	315	235
	美デ科	60	44
	合計	375	279

募集停止

進学・就職状況

	卒業生数	進学者数			就職	その他
		大学	短大	専門学校		
常葉学園高等学校	195	85	50	46	9	1
常葉学園橘高等学校	346	205	40	59	17	25
常葉学園菊川高等学校	341	221	29	46	17	28

教育環境の整備・充実

より充実した教育の実現のため、学生・生徒等の学習ニーズの多様化や学校を取り巻く社会の環境変化に対応した施設・設備の整備事業を実施し、教育環境の整備・充実に努めました。

平成24年度は、常葉学園施設整備中期計画に基づき、水落校地において平成24年2月に着手した常葉学園中・高等学校の校舎改築工事及び常葉大学新学部（法学部・健康科学部）の校舎新築工事を実施し、第1期工事が平成25年1月に竣工、同月18日引渡しを受け、供用を開始しました。

また、平成24年12月に常葉リハビリテーション病院の移転・改築工事に着手するとともに、各校の施設・設備の更新・改修等の事業を実施しました。

主な整備事業は、次のとおりです。

- 常葉学園大学 ... 駐輪場の改築整備
教室環境の改善 机・椅子の更新（602, 703, 801, 802, 803, 805）
情報教育支援システム更新（305, 313, 314, 3513）
創立者資料室を教室（413）に改修
サテライトビル外壁改修
- 浜松大学 ... 情報教育センターC3、C4実習室入替
本館1・2・3階トイレ改修
- 富士常葉大学 ... 2号館研究室空調更新
PC教室リプレース事業
- 常葉中・高等学校 ... 水落校地整備事業（校舎改築工事、旧校舎解体工事）
第1期工事竣工（平成25年1月18日引受）
新校舎教研備品購入
新校舎ネットワーク工事
- 橘中・高等学校 ... 新館パソコン教室パソコン更新
- 菊川中・高等学校 ... 野球部室内練習場整備
野球場調整池整備工事
空調機移設工事
- 常葉リハビリテーション病院 ... 病院移転改築用地の購入
新病院建築工事請負契約の締結
- 法人本部 ... 水落校地整備事業（新学部新校舎建築工事）
第1期工事竣工（平成25年1月18日引受）
新学部ネットワーク工事
新学部教具・校具・備品購入
新学部水落キャンパスシステム構築
OA教室OA機器備品一式
法学部図書購入
健康科学部図書購入
新学部図書館システム一式
新学部事務機器一式

(3) 施設等の状況

現有施設設備の所在地等の説明

主な施設設備の状況は次のとおりです。

施設名・所在地	施設等		面積等	帳簿価額	
常葉学園大学 (静岡市)	校地		52,559㎡	1,222,108千円	本館、1号館、2号館、 3号館、サテライトビル
	校舎等	6棟	30,195㎡	2,776,364千円	
(島田市)	寄宿舍	1棟	639㎡	71,352千円	川根実習施設
(浜松市)	校地		0㎡	0千円	三ヶ日セミナーハウス
	寄宿舍	1棟	0㎡	0千円	
(菊川市)	校地		11,524㎡	160,665千円	
	校舎	3棟	9,184㎡	618,217千円	
浜松大学 (浜松市)	校地		205,599㎡	2,862,728千円	本館、1号館、2号館、 3号館、5号館、トコホール 7号館、8号館、9号館
	校舎等	15棟	41,231㎡	5,279,940千円	
富士常葉大学 (富士市)	校地		88,552㎡	1,942,056千円	1号館、2号館、3号館
	校舎等	6棟	20,642㎡	2,467,772千円	
常葉学園短期大学 (静岡市)	校地		42,848㎡	1,579,607千円	本館、2号館、3号館、 4号館、5号館、6号館、 7号館、8号館、T号館
	校舎等	11棟	15,149㎡	994,763千円	
常葉学園中・高等学校 (静岡市)	校地		42,903㎡	2,383,725千円	新校舎一期棟、北館、 東館、南館、常葉会館
	校舎等	6棟	8,621㎡	749,612千円	
常葉学園橘中・高等学校 (静岡市)	校地		46,020㎡	369,472千円	本館、音楽棟、美術棟、新 館、和敬庵 尚志館、行之館、橘志館
	校舎等	9棟	18,349㎡	673,289千円	
常葉学園菊川中・高等学校 (菊川市)	校地		73,920㎡	751,815千円	本館、東館、北館、 南館、新館、光葉館、 美術棟、屋内練習場
	校舎等	10棟	15,305㎡	824,620千円	
常葉学園大学教育学部 附属橘小学校 (静岡市)	校地		13,703㎡	849,610千円	本館、オーケストラレッス ン室
	校舎	2棟	4,113㎡	216,925千円	
常葉学園短期大学 附属とこは幼稚園 (静岡市)	園地		2,500㎡	171,875千円	
	園舎	1棟	1,361㎡	223,919千円	
常葉学園短期大学 附属たちばな幼稚園 (静岡市)	園地		2,283㎡	231,910千円	
	園舎	1棟	1,520㎡	204,366千円	
常葉学園医療専門学校 (浜松市)	校地		0㎡	0千円	浜松大学へ用途変更
	校舎	0棟	㎡	0千円	
常葉学園 静岡リハビリテーション専門学校 (静岡市)	校地		1,033㎡	1,000,036千円	
	校舎	1棟	3,181㎡	385,637千円	
常葉リハビリテーション病院 (浜松市)	土地		12,433㎡	256,284千円	
	病院	1棟	6,132㎡	49,998千円	

施設名・所在地	施設等		面積等	帳簿価額	
法人本部 (静岡市)	土地		4,546㎡	429,854千円	学生寮、研修センター、 迎賓館、スイミング 大学水落校舎一期棟
	寄宿舍 等	5棟	11,465㎡	1,345,540千円	
(伊豆の国市)	土地		334㎡	17,000千円	現在使用していない。
(浜松市)	土地		61,747㎡	775,364千円	三ヶ日セミナーハウス等
	寄宿舍	1棟	733㎡	108,277千円	
合 計(平成25年3月31日現在)	土地		662,504㎡	15,004,110千円	
	建物		187,820㎡	16,990,591千円	
				31,994,701千円	

主な施設設備の取得又は処分の状況

平成24年度の主な施設設備の増減は次のとおりです。

ア) 施設設備の取得

・常葉学園大学

2階建駐輪場整備(構築物)

延床面積：1,387.12㎡ 取得価額：45,990千円

・常葉中・高等学校

水落校舎第1期工事分(鉄骨8階建、常葉大学と区分所有)

延床面積：2,990.84㎡ 取得価額：662,179千円

・菊川中・高等学校

野球部室内練習場(鉄骨・軽量鉄骨造張力膜屋根平屋建)

延床面積：1,393.00㎡ 取得価額：105,231千円

・常葉リハビリテーション病院

移転・改築用地取得 5,777.00㎡ 取得価額：106,620千円

・法人本部

水落校舎第1期工事分(鉄骨造8階建、常葉中高と区分所有)

延床面積：4,904.56㎡ 取得価額：1,032,789千円

イ) 施設設備の処分

・ 常葉中・高等学校

旧校舎本館解体撤去（鉄筋コンクリート造 5階建）

延床面積：2,527.01m² 除却価額：4,512千円

〃 体育館解体撤去（鉄筋コンクリート造 3階建）

延床面積：2,105.54m² 除却価額：11,055千円

〃 図書館解体撤去（鉄筋コンクリート造 2階建）

延床面積：249.90m² 除却価額： 2円

・ 法人本部

橘小、グリーンフィールド隣地の譲与（市道鳥坂40号線改良のため）

譲与面積：146.77m² 除却金額：9,263千円

* 本件は、平成23年度事業報告書に記載した事案であるが、静岡市の所有権移転登記が平成24年6月8日にずれ込んだことから再掲するものである。

ウ) 施設設備の用途変更

・ 医療専門学校の施設設備（校舎）の一部を浜松大学へ用途変更

医療専門学校の理学療法学科及び作業療法学科を浜松大学保健医療学部へ、鍼灸学科及び柔道整復学科を同大健康プロデュース学部を発展改組したことに伴い、医療専門学校の校舎の一部を浜松大学の校舎へと用途変更する。（最終年度）

		旧	新	増減
校 舎	医療専	6,539m ²	0m ²	▲ 6,539 m ²
	浜松大	34,692m ²	41,231m ²	+ 6,539 m ²

(4) その他

理事会の開催状況

第1回	平成24年	5月19日(土)
第2回	平成24年	5月19日(土)
第3回	平成24年	8月28日(火)
第4回	平成24年	11月16日(金)
第5回	平成24年	12月22日(土)
第6回	平成25年	1月7日(木)
第7回	平成25年	3月20日(水)
第8回	平成25年	3月20日(水)

評議員会の開催状況

第1回	平成24年	5月19日(土)
第2回	平成24年	8月28日(火)
第3回	平成24年	11月16日(金)
第4回	平成24年	12月22日(土)
第5回	平成25年	1月17日(木)
第6回	平成25年	3月20日(水)

監事監査の実施状況

第1回	平成24年	5月15日(火)
第2回	平成24年	12月6日(木)
第3回	平成25年	3月11日(月)

3 . 財務の概要

(1) 財務の概要

本学園の財政運営に当たっては、「学校経営の安定を図り、健全な学校運営のため、堅牢な財政基盤の構築と徹底した支出の削減」を基本目標に、経営の合理化に努めてまいりました。

平成 2 4 年度における消費収支上の主な財務の概要は次のとおりです。

平成 2 4 年度の帰属収入（消費収支計算書参照）は、1 2 4 億 8 8 百万円と前年度に比べ 3 9 百万円の減少でした。これは主として、補助金が 7 0 百万円、手数料が 5 6 百万円、寄附金が 4 7 百万円増加したものの、学生生徒等納付金が 3 0 百万円の減少となったほか、前年度計上された土地等の売却収入が今年度は発生しなかったことから資産運用収入等が 1 億 8 2 百万円の減収となったことなどによるものです。

また、基本金組入額は、常葉リハビリテーション病院の用地取得や常葉学園中・高等学校及び常葉大学水落校舎の一部が完成したことに伴う 1 号基本金への組入れのほか、常葉大学短期大学部、橘中・高等学校などの改築準備のために設けた 2 号基本金への組入れなどにより、前年度に比べ 7 億 2 1 百万円の増加となりました。

一方、消費支出は、1 1 6 億 2 9 百万円で、前年度に比べ 5 百万円増加しました。

これは、資産処分差額が平成 2 3 年度に比べ大幅に減少したことから、これを含む借入金等利息等が 2 億 8 6 百万円の減少となったものの、管理経費が 1 億 1 6 百万円、教育研究経費が 9 9 百万円、人件費が 7 6 百万円それぞれ増加したことなどによるものです。

この結果、消費収入から消費支出を控除した当年度消費支出超過額は 1 3 億 6 0 百万円となりました。

次に、貸借対照表の概要ですが、資産の部は前年度に比べ 2 4 億 4 9 百万円の増加となりました。これは、固定資産のうち、土地 9 8 百万円、建物・構築物 1 0 億 7 7 百万円、その他の固定資産のうち施設拡充引当特定資産が 1 2 億円余増加したことなどによるものです。また、負債の部は、日本私立学校振興・共済事業団からの長期借入金 5 億 8 0 百万円や水落校舎の建築経費の支払いが 4 月以降になったことに伴う未払金（その他の流動負債）の発生などにより前年度に比べ 1 5 億 9 0 百万円の増加となりました。

なお、基本金は、常葉大学短期大学部等の建築資金の第 2 号基本金への組入れなどにより前年度に比べ 1 9 億 1 2 百万円増加し、5 3 8 億 3 6 百万円余となりました。

(2) 資金収支計算書

(単位:百万円)

科 目 名		平成24年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度	平成20年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	8,035	8,065	8,304	8,547	8,680
	手 数 料 収 入	221	165	181	172	163
	寄 附 金 収 入	164	128	111	88	115
	補 助 金 収 入	2,138	2,068	2,181	2,250	2,097
	資 産 運 用 収 入	175	203	218	210	176
	資 産 売 却 収 入	1	514	302	1	1
	事 業 収 入	1,133	1,087	973	759	709
	雑 収 入	594	506	408	593	417
	前 受 金 収 入	1,849	1,702	1,724	1,723	1,706
	そ の 他 の 収 入	8,430	4,642	3,842	4,789	6,753
	資金収入調整勘定	2,525	2,479	2,183	2,385	2,273
	前年度繰越支払資金	6,965	7,499	6,370	5,780	3,722
	合 計	27,180	24,100	22,431	22,527	22,266
支出の部	人 件 費 支 出	7,621	7,545	7,421	7,628	7,490
	教育研究経費支出	1,728	1,637	1,758	1,801	1,774
	管 理 経 費 支 出	1,033	912	924	830	876
	借入金等利息支出	14	18	21	24	26
	借入金等返済支出	104	104	104	87	87
	施 設 関 係 支 出	1,870	426	360	340	517
	設 備 関 係 支 出	677	339	298	278	337
	資 産 運 用 支 出	6,471	6,022	3,586	4,804	5,368
	そ の 他 の 支 出	1,002	916	1,014	993	641
	資金支出調整勘定	1,701	784	554	628	630
	次年度繰越支払資金	8,361	6,965	7,499	6,370	5,780
	合 計	27,180	24,100	22,431	22,527	22,266

(3) 消費収支計算書

(単位:百万円)

科 目 名		平成24年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度	平成20年度
消費収入の部	学生生徒等納付金	8,035	8,065	8,304	8,547	8,680
	手数料	221	165	181	172	163
	寄附金	190	143	168	131	317
	補助金	2,138	2,068	2,181	2,250	2,097
	資産運用収入等	1,904	2,086	1,858	1,563	1,303
	帰属収入合計	12,488	12,527	12,692	12,663	12,560
	基本金組入額合計	2,219	1,498	614	1,138	844
	消費収入の部合計	10,269	11,029	12,078	11,525	11,716
消費支出の部	人件費	7,621	7,545	7,450	7,658	7,492
	教育研究経費	2,825	2,726	2,859	2,950	2,913
	管理経費	1,136	1,020	1,033	939	983
	借入金等利息等	47	333	146	75	68
	消費支出の部合計	11,629	11,624	11,488	11,622	11,456

(4) 貸借対照表

(単位:百万円)

科 目 名		平成25年3月31日	平成24年3月31日	平成23年3月31日	平成22年3月31日	平成21年3月31日
資 産 の 部	固定資産	47,714	45,949	45,273	44,356	43,081
	土 地	15,004	14,906	14,909	14,937	14,937
	建 物 ・ 構 築 物	17,571	16,494	17,210	17,766	18,328
	機 器 備 品	1,844	1,625	1,632	1,647	1,787
	図 書	2,884	2,776	2,745	2,712	2,674
	その他の固定資産	10,411	10,148	8,777	7,294	5,355
	流動資産	11,153	10,469	10,233	9,920	10,216
	現 金 預 金	8,361	6,965	7,499	6,370	5,780
	その他の流動資産	2,792	3,504	2,734	3,550	4,436
	合 計	58,867	56,418	55,506	54,276	53,297
	負 債 ・ 基 本 金 ・ 消 費 収 支 差 額 の 部	固定負債	2,638	2,156	2,218	2,202
長 期 借 入 金		1,107	600	704	808	913
退 職 給 与 引 当 金		1,422	1,422	1,422	1,394	1,364
その他の固定負債		109	134	92	0	0
流動負債		3,864	2,756	2,685	2,675	2,662
短 期 借 入 金		73	104	104	104	87
前 受 金		1,863	1,716	1,738	1,736	1,717
その他の流動負債		1,928	936	843	835	858
基本金		53,836	51,924	50,776	50,437	49,758
消費収支差額の部合計		1,471	418	173	1,038	1,400
合 計		58,867	56,418	55,506	54,276	53,297

(5) 主な財務比率比較

(単位: %)

比率名	算式	24年度	23年度	22年度	21年度	20年度
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	6.9	7.2	9.5	8.2	8.8
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	113.2	105.4	95.1	100.8	97.8
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒納付金}}{\text{帰属収入}}$	64.3	64.4	65.4	67.5	69.1
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	61.0	60.2	58.7	60.5	59.6
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	22.6	21.8	22.5	23.3	23.2
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	9.1	8.1	8.1	7.4	7.8
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	288.6	379.8	381.1	370.8	383.7
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	12.4	9.5	9.7	9.9	10.2
自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	89.0	91.3	91.2	91.0	90.7
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	95.7	98.0	98.2	98.1	97.7

(6) 借入金の状況

借入先	借入金額(千円)	借入残高(千円)	利率(%)	返済期限	担保等
日本私立学校振興・共済事業団	1,000,000	333,300	2.2	平成30年9月	土地、建物
〃	320,000	266,550	2.1	平成39年9月	土地、建物
〃	236,000	236,000	0.5	平成44年9月	土地、(建物)
〃	344,000	344,000	0.5	平成44年9月	土地、(建物)
合計	1,900,000	1,179,850			

*(建物)は、建物の保存登記完了後に担保として設定する予定です。

(7) 寄付金の状況

寄付金の種類	寄付者	金額 (円)	摘要
一般寄付金	浜松大学(学校行事支援設備整備会計)	23,000,000	通学バス運行委託費
一般寄付金	浜松大学後援会	17,000,000	通学バス運行委託費
一般寄付金	常葉学園高等学校同窓会	23,000,000	新校舎教育充実のため
特別寄付金	常葉学園大学後援会	10,000,000	グラウンド(瀬名校舎北側)整備費用
特別寄付金	常葉学園大学学友会	10,000,000	グラウンド(瀬名校舎北側)整備費用
特別寄付金	常葉学園大学(情報システム費会計)	4,837,924	証明書自動発行機更新等
特別寄付金	常葉学園大学後援会	3,885,000	駐輪場電気工事及び自動火災報知設備の整備等
特別寄付金	浜松大学後援会	10,000,000	学生教育環境(コンピュータシステム)充実のため
特別寄付金	浜松大学後援会	6,925,000	学生福利厚生(本館トイレ改修工事)のため
特別寄付金	浜松大学同窓会	3,000,000	通学バス購入
特別寄付金	京都大学(都市災害)	3,000,000	研究費(富士大・田中聡)
特別寄付金	(財)日本環境整備教育センター(柴山基金)	3,000,000	研究費(富士大・小川浩)

* 300万円以上の寄付金を記載

(8) 補助金の状況

私立大学等経常費補助金については、3大学・短大合計で6億25百万円弱、静岡県私立学校経常費補助金(専門学校、中学校、小学校、幼稚園が対象)については、10校合計で13億11百万円余の交付を受けています。